

I

発達理解研究グループ

「学校行事等における子供のつまずきと支援の方法」

<研究員>

吹田第二小学校	教 諭	深山 純子
吹田第二小学校	教 諭	豊田 祐子
北山田小学校	教 諭	福 富 拓
古江台小学校	教 諭	藤内 直子
佐井寺中学校	教 諭	小口 奈緒美
千里みらい夢学園 竹見台中学校	教 諭	山口 ひろみ

<スーパーバイザー>

神戸親和女子大学	准教授	森田 安徳
----------	-----	-------

1. 経緯と目的

発達に課題があると思われる子供は、学校生活における様々な場面で「困り感」を感じていると考えられます。しかし、子供が感じている「困り感」と、周囲の大人（ここでは教職員）が受け取る「困り感」には、一致しないものがあり、そのズレが適切な支援の妨げとなっているのではないかと考えました。

そこで、今年度から本グループでは、特に、クラスや友達間より集団が大きくなる学校行事に着目し、以下の2点を目的に、研究をすすめることにしました。

- ①子供と教員両方の「困り感」に着目し、改めて子供のつまずきと考えられる背景を整理する。
- ②適切と思われる支援を研究する。

学校行事では、日常とはまた違う「つまずき」と「困り感」が生じる可能性があります。また、小学校と中学校では、定期テストや校外学習などで異なる点が多いため、「つまずき」や、もちろん支援方法も異なります。

これらの様々な課題を整理し、一つにまとめることで、この研究が経験の浅い教員や指導に悩む教員の助けとなり、ひいては子供が学校行事を通じて少しでも成長できるよう、取り組んでいきたいと思っています。

2. 主な学校行事

学校行事は、小学校と中学校に分けて研究しました。今年度取り組んだ内容は以下の通りです。

主な学校行事	
小学校	中学校
運動会 式典（入学式・卒業式） 宿泊学習（林間・臨海・修学旅行） 校外学習 委員会・当番活動	定期テスト 校外学習・宿泊学習・修学旅行 委員会
音楽会 プール 健康診断 避難訓練	部活動 文化祭 体育大会 合唱コンクール 職業体験

平成30年度
研究テーマ

3. 方法

行事ごとに、以下の3点について整理します。

(1) 子供のつまずき

どのような場面で子供が「困り感」を感じるかを整理します。学校行事は、内容によっては取り組む期間も長いため、事前準備と当日等に場面を分け、より具体的に整理します。

(2) 考えられる背景

どうしてつまずいているのか、本来であれば子供によって違います。ここでは、主として考えられる背景を、以下のように項目ごとに分けました。

不器用	器質的でなく機能的に、日常における運動等に困難がみられる。姿勢や体全体を使ってする運動や、指先を細かく動かすものにおいて、ぎこちなさがあったり、不正確であったりする。
不注意	集中の持続が短い 注意が散りやすい 場면을切り替えにくい 2つ以上のことを同時にできない
こだわり	特定の物事などに固執したり、独自のルールを作ったりすること。急な予定変更等に対応することが苦手。一番にこだわったりする。
感覚の課題	特定の音や光、肌触り、歯ごたえなどの感覚に対して、極端に敏感、もしくは鈍感という特徴がある。
衝動性	思いついた行動を、考える前に実行してしまう。自分の行動や感情をコントロールすることが苦手で、他人の行動をさえぎったり、質問が終わる前に答えてしまったりする。
見通しがもちにくい 不安	行動や事象の先に何があるのかを思い浮かべることが苦手。終わりの時間や行動を切り替えるタイミングがつかみにくい。 また、普段（日常）と違うことや、予想しない出来事等に対して強い不安や恐怖を感じることもある。さらに、失敗の経験からくる不安を感じることもある。
その他	自己理解 社会性 経験不足 家庭背景 記憶 体力 等

(3) 支援方法

子供のつまずきに対し、どのような支援が適切なのかを研究します。また、研究の成果については、今後活用しやすいよう、事例や教材の紹介も含め、まとめる予定です。

4. 平成30年度の研究

(1) 式典・宿泊学習・校外学習

小学校における校外学習、さらにその中でも、「歩いている時」に焦点を絞って考えました。

歩いて移動している際にトラブル、「友だちとのケンカ」が起きました。

それはなぜでしょうか？

- ア 距離感が保てない
- イ 自分勝手な行動が指摘された
- ウ 疲れてきた
- エ その他



→正解は、全部です。

私たちが実際に目の当たりにした事例をいくつか紹介します。

ア 「距離感が保てない」が原因の場合

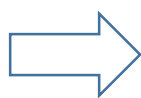
事例 1年生の遠足

1年生ではただ列で歩くことも難しいことがあります。距離感が保てない子は、前の子にぶつかってしまったり、後ろからぶつかられたことを、いやがらせをしてきたと思ったりする場合があります。特に、背の高い子などは前の速さに左右され、適度な距離感が崩れると並んで歩くのは難しいです。

トラブルが起こる前に、先頭に並んでもらい、先生と速さを調節するとうまくいく場合もあります。そんな時、罰として先頭に立たせるのではなく、

「〇〇さん、大きな声で頑張れるから号令係をやってくれる？」

と、先生の近くで「バディはじめるよ！」と声をかけるようお願いしました。うまくトラブルを回避できるだけではなく「自己有用感」を感じることができたようでした。



<支援方法>

- (ア) 並ぶ位置の工夫
- (イ) 先頭で役割を与える

イ 「自分勝手な行動を指摘された」が原因の場合

自分のこだわりのある行動や、感覚を刺激する行動をしている時に周囲に指摘されると、腹が立ち、相手に手を出してしまうことがあります。

事例

自分勝手な行動をしてしまう児童は、もしかしたら、自分の意識とは別のところで、気がつけば動いてしまう児童かもしれません。遠足は興味や関心のあることでいっぱいです。そんな中、みんなと一緒に歩くこと自体が大変難しいことになってしまいます。そんな時に先生が叱るなどして行動を制していると、ほかの子も同じようにその子を注意するようになり、言われたほうも腹を立てて喧嘩になってしまいます。

今日の前のことにとらわれると、遠足のメインイベントの時間が無くなってしまいます。そんな時には見通し表（しおりの行程部分）のなかで、「いまここだよ。こっちを見るの楽しみだね。」と見通しを持たせ、今の状況を確認することで、今日の前のものへの意識は少しダウンできるかもしれません。



＜支援の方法＞ （ア）予定の確認を行い、本来の目的を伝える
（イ）友達のこだわりについて知ってもらう

ウ 「疲れてきた」が原因の場合

疲労から歩くことへの注意が向かずトラブルが起こります。また、見通しが持てず、不安になることも背景にあげられます。移動にかかる時間や距離の見通しが持てないことからトラブルが起こります。



＜支援の方法＞ （ア）「友だちにいやなことはしない」等、事前に目標を設定する
（イ）疲れを感じさせないための遊びを準備しておく
（しりとり、古今東西、マジカルバナナ等）

このように、要因はそれぞれの背景によってちがうにもかかわらず、トラブルが起こり、指導せざるをえない状況になってしまいます。遠足での打ち合わせ時にはそういう要因のある児童についてあらかじめ考えておき、配慮することで、最後まで楽しい遠足ができるのではないのでしょうか。

（２）委員会・当番活動

小学校生活は、集団生活の中で過ごす為に、委員会や当番活動など、自分自身に決められた役割や仕事があります。ここでは、小学校の高学年が、月に１回程度ある授業時間内の委員会活動と日々の当番活動の大きく２つの活動に分けて、つまずきと背景そして対応や支援方法について研究をしました。

ア 委員会活動

高学年が活動をする委員会では、考えられる４つのつまずきがあります。

- （ア）集合場所に行きにくい
- （イ）話の内容が分かりにくい
- （ウ）メモを取る手が苦手である

(エ) 宿題が仕上げられない

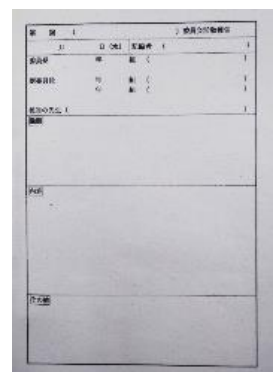
これら、4つのつまずきの支援方法に共通していることは、友達や教員に聞いて、確認をする力が大切だと考えます。自分の教室でない場所に集合し、普段関わりの少ない教員と活動することは、見通しが持ちにくく、大きなストレスや緊張で固まってしまうことがあります。普段より、感情のコントロールがしにくく、衝動性が顕著に出て、いわゆる“きちんとやる”という事がしにくい児童がいます。そんな環境の中で、自分と向き合い、人に頼ったり繋がったりすることが大切です。その為には、事前に担任や、委員会担当者が、児童のつまずきや背景を、理解しておくことが必要だと考えます。

イ 委員会・給食・掃除等、日々の当番活動について

小学校の委員会活動は、決まった曜日担当の休み時間に、仕事をする人が多いと思います。教室には、委員会の当番表の掲示がないことで、確認をする機会も少なく、仕事を忘れてしまいがちです。ここで、忘れないための支援方法を紹介します。

(ア) 写真A

当番や仕事内容を忘れやすい児童が、委員会中にメモを取るプリントです。手元に持っておくことで、忘れた時にいつでも確認をすることができます。

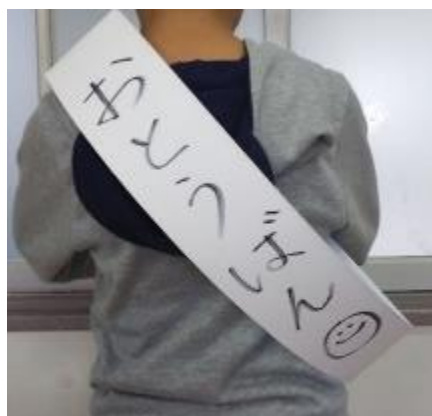


(写真A)

(イ) 写真B

当番をアピールするたすきやマークです。

視覚的支援の他に、周囲から「がんばってね。」と声掛けをしてもらうことで、楽しんで当番活動ができます。



(写真B-1)



(写真B-2)

(ウ) 写真C

毎時間見る機会が多い机の上に、ビニールテープを貼ることで、意識をして当番をすることができます。



(写真C)

その他の、給食や掃除の活動についても、毎回やり方やルールが変更されると、混乱をすることがあります。教室の中で決まったルールや、その児童に固定したルールがあると、活動がしやすいです。また、そのルールを視覚化することで、見通しが持て、安心して当番をすることができます。このような支援をすることによって、子供自身が自尊心を下げることなく、自己肯定感が保てるのだと考えます。

(3) 運動会

運動会での子供のつまずきを整理し、項目にまとめると、20項目以上になりました。そして、そのつまずきの支援として考えたことを整理すると、大きく三つの「支援・対応」にまとめることができました。

ア 見通しを持たせる

運動会は①練習期間が長い ②時間割が変則的 ③予定変更が多いことから、子供たちが見通しを持つことが難しく、練習に参加しにくくなることが予想されるからです。

見通しを持たせることの具体例としては、「練習期間中、いつ練習があるか、長期的なスパンでの見通し表の提示」「その日1時間の練習内容や目標の提示」「いつ入場門に並ぶのか、当日の動き方について見通し」などがあります。見通しを持たせるといっても、どのくらい具体的に伝えるのか、子供によって様々です。そうした具体例も、今後集めていけたらと思います。

イ 覚えることが苦手な子どもも覚えやすいように情報を提示する

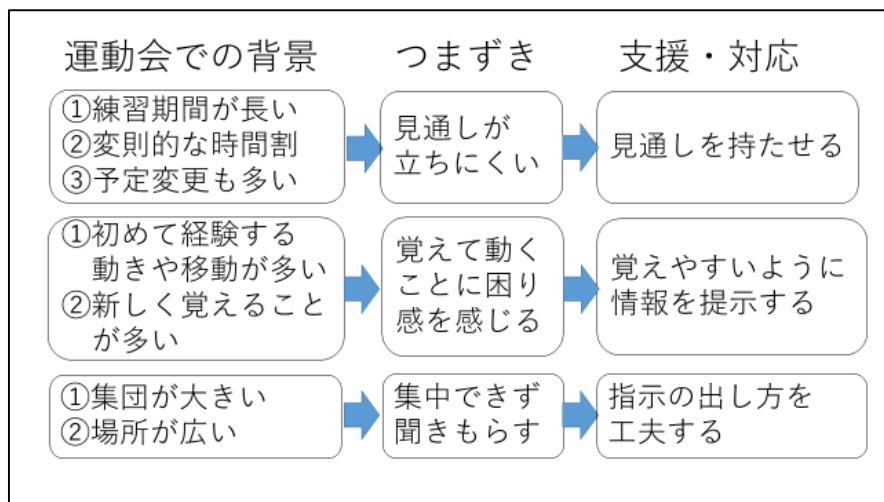
運動会は①初めての経験する動き・移動が多い ②新しく覚えることが多いことから、覚えることにつまずく子供がいることが予想されるからです。

覚えやすいように情報を提示することの具体例としては、「並び方のパターンを減らして覚えることを少なくする」「自分が覚えておくことをいつでも確認できるように、図や絵や写真で提示しておく」などがあります。

ウ 指示の出し方を工夫する

運動会は ①集団も大きくなり人数が増える ②運動場や体育館など広い場所で練習することから、集中して話が聞きにくく、話を聞きもらす子がいることが予想されるからです。

指示の出し方を工夫することの具体例としては、「少し複雑な動きやルールは、事前に教室で、図などを書きながら説明しておく」「スモールステップで練習内容を設定し、一つの内容についての説明は、直前に具体的に短く説明する」などがあります。



以上の支援・対応の情報は、さらに「事前」「その時間」「事後」と時系列に整理して、一覧表にまとめていけたらと思っています。また、それ以外にも、「感覚過敏がある子供への支援・対応」「不器用な子供への支援・対応」「運動に苦手意識がある子供への支援・対応」についてもまとめていきたいと思っています。

(4) 定期テスト、校外学習・宿泊学習・修学旅行、委員会活動（中学校）

ア 中学1年生を対象としたアンケート

平成31年10月に吹田市内のある中学校の1年生を対象に「中学校生活の中で小学校と同じ感覚でいると大変なことは何ですか」という質問で、10項目の中から優先順位をつけて3つ選ぶというアンケートを実施しました。（右図参照）

すると、優先順位の3位までにテストと答えた生徒が87パーセントもいました。過去2年も同じ質問をしたところ同様の結果がでて、3年連続8割以上の生徒がテストについて

小学校との違いに戸惑いと困り感を感じていることがわかりました。テストをあげた理由として範囲が広い、難しい、提出物が多い、高校入試に関わるなどの理由があげられました。

そこで、定期テストについて、子供のつまずき等を研究し、一部をまとめました。

中学1年生にアンケートを実施。H30.10月実施
回答82名

「中学校生活の中で、小学校と同じ感覚でいると大変なことは何ですか？」

- | | |
|---------|----------------|
| 1, 授業 | 6, 友だち関係 |
| 2, 宿題 | 7, 学校のルール・校則など |
| 3, テスト | 8, 先輩・後輩の関係 |
| 4, 部活動 | 9, 先生との関係 |
| 5, 生活習慣 | 10, その他 |

イ 定期テスト

テストまでのつまずきと背景を考える時に、『テストまで』、『テスト当日』、『テストの結果』を受けての3つの場面に分類し、それぞれの場面でのつまずきを考えました。

(ア) 提出物を出さない生徒

この生徒はなぜ出さないでしょうか。

こういった生徒の多くが怠けているなどと判断され、「なぜ出さないのか」「どうするの」と教員から叱られてしまっているのではないかと思います。

しかし、本当に出さないのでしょうか。出せないのかもしれませんが。ほかに理由があるのかもしれない、本当は困っているのかもしれない。

事例 問題集を出せない生徒

問題集は授業の中で「ここまでやっておきなさい」と指示され、その積み重ねが定期テスト後の提出物となるケースが多いです。

「提出物が出せない」つまずき

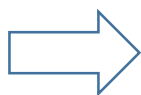
提出物…ノート、問題集、ファイル・プリント類

「問題集が出せない」つまずき

- ①範囲が多くてやれない
- ②宿題と分かっていない
- ③範囲が分かっていない
- ④自分の力で全てやらないと気が済まない

問題集が提出できないつまずきとして

- ①範囲が多くてやれない…自分がその問題や課題を終わらせるのにどれくらいの時間が必要か見通しを立てられず、範囲が多くてやれない。
- ②宿題とわかっていない…宿題とはっきり言われないとわからない。
- ③範囲がわかっていない…授業中、色々な音が気になって教員の言葉に注意がむけられない、不注意のため話を聞き逃し、範囲がわからない。
- ④自分の力で全てやらないと気が済まない



<支援の方法>

- ①個別に声かけをする
- ②付箋を貼らせる
- ③スケジュールを一緒にたてる
- ④進度の目安をこまめに伝える
- ⑤できる範囲を黒板に書いておく

テストについては個別の支援だけではなく、クラスなどでテストについての心構えや勉強の仕方などを丁寧に事前指導することも大切です。

教員の思い込みで生徒を判断するのではなく、様々なつまずきや背景を想定して対応することが大切だと考えました。

5. おわりに

今年度、発達理解研究グループは、課題整理や情報を集めながらまとめてきました。次年度はより多くの事例等も収集しながら、教職員の誰もが使いやすい「学校行事における子供のつまずきと支援集」を作成する予定です。さらに言えば、最終的な目標は、これらの資料等を活用しながらすべての教職員が特別支援教育の視点を持つことにあります。

特別支援教育の視点から、「どうしてこの子は行事になると問題行動が増えるのか」「なぜ参加したがないのか」「何度言ってもわからない」といった教員の悩みを、子供の『困り感』として捉え、「どうすれば参加できるか」に視点を変えることができれば、子供も教員も大きく成長できるのではないのでしょうか。この研究がその一助となれば幸いです。

本グループは学校行事に絞って研究を進めていますが、行動面や学習面など、個々の課題については多くの資料が提供されています。これらの資料もぜひ活用してみてください。

<参考資料>

- ・「気になる子どもへの支援のヒント ―相談事例集―」

平成21年3月 大阪府教育研究所連盟 教育相談部会編

- ・「こんなことはありませんか?～子どものサインを見逃さない～」

平成25年 吹田市立教育センター 子ども支援研究グループ

- ・「ASDのエピソード収集と対応する支援方法の検討」

平成28年 吹田市通級指導教室